

シシトウ

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
露地 マルチ												
主な作業	播種			定植			収穫					

シシトウ ナス科 原産地：

栽培技術

作物名 シシトウ

学名 *Capsicum annuum* L.

作型 平坦地

1 品種
椿グリーン

技術体系

1 特徴

梅雨時期と夏場の高温乾燥を越す栽培となるので、通気性と保水性に優れた土壤に適する。

特に夏場の土壤水分不足は辛みが強くなる等の品質低下を招くので注意が必要である。

2 栽培条件

(1) 土壤条件

畑等の乾燥しやすい土壤では、夏場水分不足となりやすいので、排水の良い水田の方が適する。畑の場合には灌水対策を十分に行う。

3 適応地域

平坦地域

4 施設装備

露地栽培のため必要ない。

5 経営目標

- | | |
|------------|--------|
| (1) 収量 | 3t/10a |
| (2) 投下労働時間 | 時間/10a |
| (3) 所得率 | % |
| (4) 経営規模 | 1~2a |

2 育苗

(1) 播種

ハウス育苗とし、播種箱に条間5cm、株間1.5cm間隔にまく。発芽までは適水分と地温30℃を保つ。発芽後は地温20℃以上、気温、昼間25~30℃、夜間20~22℃で管理する。

(2) 鉢上げ

本葉が出たら早めに3寸半~4寸ポットに鉢上げする。鉢上げ後は気温25~30℃、夜間18~20℃で管理し、定植1週間前より昼間20~25℃、夜間15℃でならしを行う。

3 本圃準備

(1) 定植準備

連作すると青枯れ病がでやすいので、ほ場を変えるか、他の作物との輪作を行う。水田では代かきをする。できるだけ深く耕耘し、水田ではかまぼこ形の高畝にし、乾燥しやすい畑では低畝にする。マルチは、アブラムシ防除のため、シルバーマルチを使用し、乾燥しやすい畑では灌水チューブを入れる。

(2) 施肥

	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
基肥	20	25	20
追肥	20	5	20
合計	40	30	40

連作する場合は土壌分析により残肥を計算に入れた施肥設計を行う。完熟堆肥2トン施用する。

4 栽培管理

(1) 栽植様式

畦幅 150cm、株間 60～80cm の1条植えとする。

(2) 定植 本葉 6～7枚で、育苗日数 50～55日、本葉 6～7枚で第一花芽が見えるくらいが定植適期となる。定植は数日天候の良い日に行い、深植えにならないようにする。倒れ、折れ防止に仮支柱を立てる。定植後は初期生育促進のため、株元に液肥灌水（400倍）を行う。

(3) 支柱立て

定植後 20日頃までには本支柱を立て、50cmの高さにネットを張る。支柱は 120～130cmの長さで、2m間隔に立て、第二～第三分枝が通るように張る。

(4) 灌水

7～8月期は高温乾燥により辛みが強くなりやすいので、灌水をこまめに行う。

(5) 整枝、誘引

過繁茂になると果色が薄くなるので、混み合う場合は適時内部の枝を間引き、内側に光を当てる。生育が良く、樹高が高くなる場合は、ネットをさらに張る。

6 収穫

雨に濡れた後に収穫したものは成りひも部分が溶けるので、パック詰め前に十分に乾燥させてから出荷する。